

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	生活支援センター4 L I F E		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2025年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【活動スペース】 体が大きい利用者さんが動き回っても大丈夫なように、活動スペースは広めに確保している。	【地域との交流】 現在、毎月第2土曜日にふれあい食堂(こども食堂)の開催と、年に2回地域の方も一緒に参加できるイベントを開催している。今後余裕があればさらにイベント数を増やしていきたいと考えている。	
2	【支援の専門性】 入所施設や成人施設の経験者が在籍しているため、様々な障害特性に合わせた支援の提供ができる。 特に重度の知的障害を持つ方や、強度行動障害により他事業所を断られた方を積極的に受け入れている。	【情報発信】 毎月保護者向けに発行しているお便りと、SNSを利用して情報発信を行っている。	
3	【家族支援】 ご家庭での困りごとを共有し、気軽に取り組める活動や外出支援を行なうことでご家庭でも安心してお子様とコミュニケーションやお出かけができるようにアドバイスをしている。		

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【個別スペース(部屋数等)の確保】 パーティションの設置等により、必要に応じて個別スペースを確保していけるかどうかが課題である。 完全な個室の確保は難しい。	【スタッフの確保】 福祉職のなり手不足。 常に様々な媒体でスタッフの募集を行っているが、なかなかエントリーがない。また時給アップも行ったが状況は変わらず、そもそも障害福祉分野への就職希望者が少ない。	【スタッフの確保】 学生アルバイトを積極的に採用し、福祉に興味を持ってもらうとともに、若い福祉の担い手を育成している。
2	【スタッフの確保】 重度の利用者さんが多く、外出やイベントとなると配置基準以上のスタッフ配置が必要となる場合がある。	【活動内容】 重度の利用者さんが多いので、できる活動内容が極端に限定されてしまい、マンネリ化してしまうリスクが大きい。	【活動内容】 他事業所とも意見交換をして重度の利用者さんでも取り組めるような活動内容を模索していく。 また、外出等に関してはインターネット等を駆使して情報の収集を行い、楽しく外出できるように工夫していく。
3	【活動内容】 重度の利用者さんが多いので、できる活動内容が極端に限定されてしまい、マンネリ化してしまうリスクが大きい。		【福祉に対するイメージ】 SNSを利用して、仕事に対するイメージの改善、楽しく仕事ができるイメージをもってもらえるような内容の投稿ができるよう工夫していく。